

大館市で自動運転実証

オリコンサル 雨天時の信号判断向上へ

オリエンタルコンサルタンツが参画する大館版自動運転移動サービス推進協議会は、秋田県大館市で小型EV（電気自動車）バスを活用した自動運転移動サービス実証実験を行った。地域の移動課題の解消を目指す取り組みの一環で、地域住民の社会受容性向上と持続可能な運行に向けた共創事業によるビジネスモデル構築を目指す。

同市は、自動運転の導入と実証実験中のAI（人工知能）

オンデマンド交通との連携などを通じて、市民の外出の機会を創出して移動総量を増加させることで、移動格差の緩和と幸福度の向上を目指している。

実証は、市の交通再編に伴う自動運転移動サービス導入を見据えたもの。国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）」「自動運転実証調査事業と連携した路車協調システム実証実験」の採択

を受けた。

同市での実証は3度目で、過去の実証の結果、課題に挙がっていた走行速度と雨天時の信号灯色判断の向上を目指した。JR大館駅、商業施設、総合病院を循環する約5・5kmのルートを11月16日から3日間運行し、市民など237人が参加した。

同社は、交通計画を担当するコンサルタンの立場で協議会に参画している。実証では、自動運転移動サービスの解説や、AIオンデマンド交通の利用促進などに関するパネル展示により、移動サービスに対する地域の期待感の醸成に貢献した。